

「令和6年度 取組状況」及び「令和7年度 教育課程編成と改善策」について

本年度も残すところわずかとなりました。子どもたちは、学習や行事に積極的に取り組むとともに、この一年間の自分自身の成長を振り返っています。令和6年度、本校の教育活動へのご理解・ご協力に深く感謝申し上げます。

「学校教育活動に関するアンケート」にご回答をお寄せいただきありがとうございます。皆様方の本校への期待と応援の表れと心引き締まる思いで受け取りました。令和6年度の反省と令和7年度の教育課程の編成方針を下記のように報告します。令和7年度も本校の教育活動に引き続きご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

保護者・地域の皆様方に信頼される学校となるよう、教職員一同心を合わせながら精一杯頑張っていく所存です。どうぞこれまで同様のお力添えをよろしくお願いいたします。このアンケートに関するデータにつきましては、今後、学校のホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。

～本校ホームページ <https://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310198> ～

☆ 回収率 (今年度よりオンラインでの回答実施)

児童数	回答数	回答率
459	248	54%

1 社会に開かれた教育課程の実現

地域とともに子供たちを育む教育活動を教育の柱にしています。その中でも「ふるさと教育」は、継続して活動を行っています。その成果として、令和6年度の全国学力状況調査では「将来の目標や夢を持っていますか」は5.4ポイント、「自分にはよいところがあると思う」も6.8ポイント全国平均を上回る結果となりました。「ふるさと教育」は、地域の歴史や自然に対して愛する心を育て、自ら学ぶ意欲につながっています。実際に体験することで、自信や意欲を積み重ねていくことができ、自己肯定感が高まります。ふるさと教育で子供たちは確実に育ち、夢の実現に向け歩み始めています。

今年度は、「みわサポ」という学習支援ボランティアを保護者に呼び掛け、校外学習や実習授業に参加してもらうことができました。来年度も保護者や地域の皆様と子供たちと一緒に体験するなかで、三輪小学校の特色ある教育活動をへの理解を深めてもらう予定です。

①学校は、地域の人材を積極的に活用した教育活動を行っている。
(%)

②学校は地域と一体となって子どもたちをはぐくんでいる。
(%)

○体験活動の充実

- * 「ふるさと教育」を一層活性化させ、米作りや里山、鶴見川などの地域環境を生かした地域体験活動を推進する。
- * アンサンブルカンタービレや箏の講師を招き、現代音楽や日本の伝統文化に触れる機会を作り、豊かな情操を養う。

○地域人材の活用

- * キャリア教育では、地域の方で専門的な知識を持っている方をゲストティーチャーに招き、自分自身の将来について考える授業を行う。
- * 幼稚園、保育園、鶴川第二小、鶴川第二中、近隣大学等との連携を一層深める。

③学校は、保護者や地域の方に対して情報発信している。
(%)

④学校は、保護者会や学校公開、学校公開、学校行事などで、教育活動を公開している。
(%)

○ホームページや tetoru の有効活用

- * ホームページの充実させ、学校の方針や児童の様子などを随時発信していく。
- * 連絡方法の手段の一つとして、tetoru の有効活用していく。
- * 学校だよりの内容を見直し、保護者や地域にとって必要な情報を掲載する。
- * 学校公開日と保護者会を同日にするなど、保護者が学校行事に参加しやすくなるよう日程を調整する。

2 確かな学力

令和6年度に行った東京都・全国の学力調査結果では、都・国の平均と比較すると、どの教科もほぼ平均に近い結果となりました。今後も児童が楽しいと感じながら、確かな学力を身につけ、意欲的に学習に取り組むための授業改善を進める必要があります。

○日々の授業の工夫

- * 「導入・展開・まとめ」を基本とした授業展開を行う。
- * 全学年において算数または国語での少人数指導・TT実施する。
- * 繰り返しの学習、発展的な内容の学習、体験的学習、課題解決的な学習等を進め、基礎学力の定着を図る。
- * 授業のねらいを明確化し、考えたり調べたりする時間の確保を進め、主体的な学びを実現する。
- * 学習用タブレット等の情報機器を活用し、情報活用能力の伸長を図る

①お子様は、各教科の基礎的・基本的なことがらが身につけてきている。
(%)

(2人体制) 指導を

○学び合いによる学習形態の確立

- * 各教科等において、話し合い活動を重視し、論理的思考
- * 教員の発問の仕方を工夫し、児童の考えを深め、全体に業を行う。
- * 話し合いの仕方、発表の仕方、資料の読み取り方について学年または学校全体で統一していく。
- * 相手の考え方を受け止めながら話し合い活動を進める場「つながりタイム」を意識的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。

②お子様は、宿題や家庭学習に積極的に取り組んでいる。
(%)

を育成する。
広げていくような授
て手だてを共有し、

○家庭学習

- * 宿題や家庭学習のやり方を工夫し、児童自身が自主的にきかける。
- * 学習用タブレットの学習アプリによる個に応じた課題

③お子様は、学校です

取り組めるように働
を提示する。

○読書活動

- * 毎週水曜日の朝を本に親しむ時間を設け、読み聞かせや読書などの活動をする。
- * 読書週間やチャレンジタイムでの15分間の朝読書の取組を通して読書力や言葉の力を培う。
- * 学校図書館・学級文庫の充実を図るとともに、いつも手元に本がある状態にするなど、読書を身近なものにするための工夫をする。
- * 外部講師による読み聞かせや保護者によるボランティア活動である読み聞かせを継続する。

⑤お子様は、ICT(学習機器)を積極的に活用している。
(%)

○ICT(学習用タブレット)の活用

- * 意見の共有や比較分類などに学習用アプリを効果的に活用する。
- * 算数や理科では、プログラミングの授業を行い、課題解決の力を養う。

を養う。

○国際理解

- * ALTと共同しながら授業をすすめ、実際のコミュニケーションの目的や場面、状況を意識した言語活動の充実を図る。
- * 5年生ではスノーピーミュージアムでの校外学習、6年生ではイングリッシュフェスタを実施し、体験活動から学ぶ機会を作る。

る。

- * 学校2020レガシーを通して、多様な文化や言語の国際社会で、世界の人々と共生する意識を育成する。

* 外国の文化や自国の伝統触れ、多様な人との交流を深める。

3 豊かな心の涵養(心の教育及び生活指導)

学校の決まりや家庭での決まりを守っている子が8割を切りました。学校だけでなく、家庭や地域があたたかく見守り、愛情をかけ、丁寧に育てていることが伝わります。いじめ防止や体罰防止については、肯定的評

価が6割、わからないと回答した方が2割を超えました。学校での取組を家庭とも連携して進めていく必要性があります。

①学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組み、子供の人権を大切にしている。(%)

②お子様は、学校の決まりや家庭での決まりを守っている。(%)

○いじめ防止

- *いじめに関する授業を実施し、行動の良し悪しだけでなく、いじめを許さない強い意志をもった子どもを育てていく。
- *いじめ防止基本方針をホームページに掲載し、周知を図る。
- *心のアンケートを実施し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。
- *いじめ防止に関する校内研修を年3回行い、教員のいじめに関する意識を高める。

○人権尊重する児童の育成

- *特色ある教育活動である生命の大切さや人を思いやる児童の育成のために特色ある教育活動である「ふるさと教育」の指導を充実させる。
- *異学年交流である縦割り班活動を計画的に行い、子どもたちの「かかわり」を大切にしながら様々な教育活動を継続する。
- *道徳では、道徳判断力を養い、生活の中で実践できるよう授業の工夫を行う。また、道徳地区公開講座には地域や保護者、学校と一緒に道徳について話し合う場を設定する。
- *SNS 学校ルールに見直しや改善を行い、家庭と連携して指導を行っていく。

③お子様は、あいさつを

- 児童のあいさつへの意欲を高める組織的・継続的な指導
- *各クラス1週間ずつあいさつ運動を実施し、あいさつを積極的にを行う児童を増やす。
- *地域の登下校見守りや子ども会と連携し、校外でのあいさつ習慣を定着させる。

④お子様は、交通事故防止や不審者対応などの安全意識が身に付いている。

⑤お子様は、ICT（学習機器）、スマートフォンなどによるネットマナーが身に付いている。(%)

4 健やかな体の育成

体力調査には、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」等、様々な種目があります。去年よりも数値は上がったもののどの学年も平均を下回る種目がありました。児童が授業や日常生活の中で楽しみながら体力向上を図ることのできる教材教具を開発したり、体を動かすことへの意欲を高めるはたらきかけを工夫したりするなど、一層の改善を図っていく必要があります。

①お子様は、日常的に、運動やスポーツ（遊びや部活動を含む）に積極的に取り組んでいる。(%)

②お子様は、食に対する知識や望ましい食習慣、生活習慣が身に付いている。(%)

○楽しみながら体力向上をめざすことのできる取り組み

- *休み時間の外遊びを奨励し、日常的な体力の向上を図る。
- *縄跳び「なわとびタイム」やマラソン「みわっこかけ足」のカード等を作成・活用し、児童の運動への意欲を喚起する。
- *体づくりの活動を体育の授業や体育朝会に位置付け、体を動かす楽しさを味わわせる。

5 中学との連携

①学校は、鶴二小（鶴二中）と連携して教育活動に取り組んでいる。(%)

- 学校からの情報提供について、以下のように工夫・改善を推進し、保護者や地域が求めている情報を的確に提供していきます。
- *6年生の授業参観や部活動体験を実施する。

- *中学生による職場体験などを通して、中学との連携を図る。
- *中学生による6年生向けの学校紹介などを計画し、進学への不安を減らすようにする。

6 校内環境

⑤学校は、校内整備や校

施設の安全確保については、日々の点検の徹底、教育委員会との連携による点検・修繕を行っているところです。家庭と地域とも連携をとり、児童の安心・安全の確保のために一層の改善をしていきます。

*中規模改築は今年度に引き続き来年度も行います。外壁の塗装や校舎内の電気関係の整備などを行います。

7 保護者の方からのご意見

○クラスの人数が多い学年は、先生一人に対する負担も大きく、学力に差がある子供たちに個別に対応はできないと思う、

*児童数については、決められた定数があります。そのため、学年によって1クラスの人数に差があるのは事実です。算数については、習熟度別の授業を取り入れたり、補助の先生を入れたりしています。引き続き、学校にいる職員で尽力を尽くします。

○言葉や態度で相手を傷つける行動が目立って来たように感じます。

*道徳や学級活動の時間だけでなく、学校内の生活全般で、相手の心に寄り添ったやさしい言葉遣いを心がけるよう指導を進めます。保護者会や個人面談などでも話題にし、家庭との連携も行います。

○運動会予備日や検診日などの間違いがあった。配布文書の確認体制はどうしてるのか確認したいです。

*配布文書に記載ミスがあったこととお詫び申し上げます。管理職と主幹教諭が最終的に確認することになっています。しっかり確認するよう心がけていきます。

○タブレットを持ち帰る日のランドセルが重すぎると感じる。

*教科によっては、教科書を学校置きにしています。タブレットを持ち帰る日には、他の持ち帰りのものを極力減らすようにしていきます。

○わざわざ会社を休んで行く必要があったのかなど疑問を感じる保護者会が多かったです。

*保護者会の日は、お子さんの様子を見ていただくよう保護者会の前に授業参観等を設定します。学校での様子を見ていただくことで、学校の教育活動に理解を深めていただけたらと考えています。

○学校の門がだれでもはいる状態なので、防犯をしっかりとしてほしいです。

*安全対策として、設備の改善を教育委員会に伝えていきます。子供たちの登校後は昇降口や門を閉めるよう教職員で確認します。

○ペーパーレスの取り組みについて振り返りを実施してほしいです。

*年度末の保護者会で今年度の取り組みについてご意見をうかがいます。給食、保健関係の書類については、希望者には紙による配布を継続します。teturuによるお知らせは、今年度同様随時発信いたします。

○年間予定表の記載が分かりにくいです。

*年間行事予定は2月に配布予定です。来年初めの保護者会では学年別の年間行事予定だけでなく、保護者のお手伝い（みわサポ）をお願いしたい行事や学習について説明いたします。また、月別の学校だよりは、前月20日には発行し、下校時刻をお知らせいたします。

○学期中・夏休み中における学校でプールに入る機会が極端に減っている。

*猛暑による影響で暑すぎて実施できない日が増えました。今年度は、例年より実施開始日を早め、水泳指導の日を増やす工夫をしています。

○持ち物や宿題指示などは、口頭だけでなくほかの方法での連絡がほしい。

*連絡帳や印刷物だけでなく、teturuも活用して周知を行うようにしていきます。